

肝腎同時移植における腎臓移植希望者（レシピエント）選択基準の

改正について

1. これまでの経緯

- 腎臓移植希望者（レシピエント）選択基準における、前提条件にはC型肝炎ウイルス（HCV）抗体陽性の臓器提供者（ドナー）から提供された腎臓は、HCV抗体陽性の移植希望者（レシピエント）のみを対象とすることとされている。一方、肝臓移植希望者（レシピエント）選択基準においては、臓器提供者（ドナー）のHCV抗体の有無は問われていない。
- そのため、肝腎同時移植希望者（レシピエント）がHCV抗体陰性であり、臓器提供者（ドナー）がHCV抗体陽性の場合、腎臓のあっせんを行う事ができない。
- これに関し、令和2年7月、日本移植学会から、肝腎同時移植の際のHCV抗体陽性臓器提供者（ドナー）からHCV抗体陰性臓器移植希望者（レシピエント）への場合の腎臓のあっせんについて、腎臓移植希望者（レシピエント）選択基準の変更に関する要望があった。（参考資料4）
- これを受け、令和2年11月11日に開催された肝臓移植の基準等に関する作業班、腎臓移植の基準等に関する作業班（以下「合同作業班」という。）にて、肝腎同時移植において、HCV抗体陽性臓器提供者（ドナー）からHCV抗体陰性臓器移植希望者（レシピエント）の場合に腎臓のあっせんを行うことが適当かについて検討された。（参考資料5）

2. 合同作業班での検討結果

- 肝腎同時移植においては、HCV抗体陽性臓器提供者（ドナー）からHCV抗体陰性臓器移植希望者（レシピエント）の場合に腎臓のあっせんを行うことが合同作業班で了承された。

3. 今回の検討事項

- 合同作業班での検討を踏まえ、「腎臓移植希望者（レシピエント）選択基準」を、以下のように変更することとしてはどうか。

合同作業班の検討結果を反映した腎臓移植希望者（レシピエント）選択基準（案）

改正案	現行
<p>1. 前提条件 (1)・(2)・(3) (略) (4) C型肝炎ウイルス（HCV）抗体 C型肝炎抗体陽性の臓器提供者（ドナー） から提供された腎臓は、C型肝炎抗体陽性 の移植希望者（レシピエント）のみを対象 とし、リスクについて十分に説明し承諾を 得られた場合にのみ移植可能とする。<u>ただし、肝腎同時移植希望者（レシピエント） の場合には、C型肝炎抗体陰性の移植希望 者（レシピエント）も対象とし、慎重に適 応を決定したうえで、リスクについて十分 に説明し承諾を得られた場合にのみ移植可 能とする。</u></p>	<p>1. 前提条件 (1)・(2)・(3) (略) (4) C型肝炎ウイルス（HCV）抗体 C型肝炎抗体陽性の臓器提供者（ドナー） から提供された腎臓は、C型肝炎抗体陽性 の移植希望者（レシピエント）のみを対象 とし、リスクについて十分に説明し承諾を 得られた場合にのみ移植可能とする。</p>